

降誕節第1主日

2025年12月28日

風のように

甘木教会



主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

占星術の学者たちが帰って行くと、主の天使が夢でヨセフに現れて言った。「起きて、子供とその母親を連れて、エジプトに逃げ、わたしが告げるまで、そこにとどまっていなさい。ヘロデが、この子を探し出して殺そうとしている。」

マタイによる福音書2: 13

【説教要旨】

聖書の民はどのようなものであるかということ、「あなたがたは流浪の旅人である」ということです。信仰の民である私たちは、旅するものです。

私たちは、自分の心、体の安心、安定を得るために、一つのところで定住していきたい気持ち、体が大いにありませんか。イエス・キリストをいただく、私たちはいつも旅をするものとしての強い日々の自覚をもつものが神の民、信仰者ではないでしょうか。

今日の聖書日課は、「エジプト逃避」と呼ばれています。エジプトへの旅がヨセフとマリアに起こるのです。この旅はイエス・キリストを与えられたゆえに旅をしなければならなくなったのです。イエス・キリストが与えられた故に旅をするということです。それはまた私たちの旅でもあるのです。

イエス・キリストをいただき、いつも旅をする私たちはどのような人生の旅を生きて往くのでしょうか。

「主の天使が夢でヨセフに現れて言った。」とあります。この出来事が起きた時はイエスにおいても、マリア、ヨセフにおいても、危機が迫っていました。旅において危機が迫るとき、私たちは一人残されるのではなく、インマヌエル神がおられ、私た

ちの旅に介入され導かれるという恵みの言葉、神の導きをいただきます。神の導きなき旅は、私たちにはないということです。常に私の人生という旅は神の導きの旅であるということです。私たちの旅は一人でその旅に方向づけるのではなく、私たちの旅は、いつも神によって導かれていくということ、このことを確信すること、信頼することがイエス・キリストを信じる者の旅で得ることであると思うのです。聖書にとって旅は大変に、私たちに隠された神の重要な意志があると思うのです。

今年もあと数日です。私たちは2025年という旅をしてきました。そして、この旅は、みなさん、それぞれに大変に大切な旅であったに違いありません。

そして、私たちは、み言葉によって、私たちが旅してきたということです。だから、こう言えると思うのです。私たちの人生の旅は、み言葉によって支えられているということです。主の天使が夢でヨセフに現れて言った。「起きて、子供とその母親を連れて、エジプトに逃げ、わたしが告げるまで、そこにとどまっていなさい。ヘロデが、この子を探し出して殺そうとしている。」人生の旅の危機に、「ヨセフに現れて言った。」という「言った。」というみ言葉が私たちに与えられ、私たちは危機をこえていくのです。み言葉は、ヨセフに対する天からの聖夜のプレゼントでした。

私たちに対する最大のプレゼントは、この世のもろもろの物、知恵、力でなく、神がお語りになるみ言葉です。神のみ言葉が、私たちキリスト者の旅を支えるのです。

私たちが生きて往く、生きているこの時代は大きな変動のうちにあるでしょう。そして、私たちの人生において幾度となく見えない私たちを脅かしていく力によって危機に出会うの違いありません。しかし、私たちにはみ言葉という大いなるプレゼントが与えられています。私たちはみ言葉のプレゼントを受け入れれば良いのです。ここにすべてがあるのです。

ヨセフとマリアの間に赤子のイエスさまがおられたように私たちの人生の旅においてイエス・キリストが居られるのです。

「インマヌエル」なのです。このお方がお語りになられた、お語りになっているみ言葉が、私たちの旅に共にいて、いつも支え、導き、生きる勇気をくださいます。

先々週の礼拝後、胆管炎で立てないほどになり、聖壇の横の牧師控室の床に寝てしまいました。38℃以上の高熱だったのでしょう。ガクガク震えるような悪寒の中で、みなさんのお茶会の声が聞こえてきます。家内は、そんな私を残して帰ってしまい一人になりました。でも一人という気持ちになれなかった。人生の旅の一コマ、危機と言えば危機ですが、ここにイエスはおられて声をかけてくださるという安心な気持ちで満たされていました。

ヨセフは起きて、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトへ去り、ヘロデが死ぬまでそこにいた。

ヨセフに起きた危機という出来事は、私たちの人生という旅の節々に起きてきます。同時にみ言葉が与えられるという私の人生の旅が始まるのです。これからも与えられ続けます。

マリアとヨセフは辛い旅を今日、出発しましたが、それはみ言葉によって導かれ、み言葉に従った旅であり、み言葉に生かされた旅だったのです。

新しく2026年を踏み出そうとしている兄弟・姉妹のみなさん、これからの旅も神のみ言葉が豊かに与えられていることを感謝しつつ、み言葉に聞き従う旅です。

ヨセフの旅が、「**幼子**」、イエス・キリストを守られた尊い旅であったように、私たちの旅はイエス・キリストを守られた旅であるという恵みに気づきつつ感謝をもって、共に祈り、歩んでいきましょう。

超知識に溢れた占星術家も帰って行く、そのときも知識を用いて危機を乗り越えたのではなく、「ところが、『ヘロデのところへ帰るな』と夢でお告げがあったので、別の道を通して自分たちの国へ帰って行った。」とみ言葉に従ったのです。すべてを捨てて、ひたすらみ言葉に従って2026年も歩んでいきましょう。

牧師室の小窓からのぞいてみると

2025年は、みなさんにとってどんな年だったでしょう。

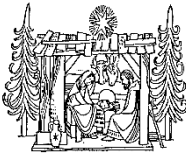


牧師の小窓からの
い前触れの景色があ



正しいこと、良心
出しの世界だったと

エゴの塊は、大き
でしょう。私は滅び



ぞくと嵐の来る前の風の強
た日々だったと思います。

が通じない、人間のエゴ丸
感じています。

く力となって世界を滅ぼす
は近いと感じています。

こんな時、力なきキリスト者は、どう生きるべきでしょうか。
私たちの教会の初めの声は「1.われわれの主であり師であるイ
エス・キリストは、「悔い改めよ」などと言われたことによって、
信徒の全生涯が悔い改めであることを求められたのである。」と
あるように、悔い改め、神にどこまでも自分を向けることだと
信じます。

園長・瞑想？迷走記

幼稚園が休みに入ると子どもたちが生活し、遊びの場
になる園舎を見て回り、直すところは直すことにしている
が、お金と相談となる。正直、お金のない幼稚園は、直したく
ても治せない。



今回は年少のトイレの床をフラットにするために改造するこ
とにした。幸い、バスの運転手さんで左官屋経験のある方が直
してくださる。また、砂場の淵も修繕してくださっている。

金がないなりに安くし、それも園長の自腹で払える範囲で直
していくしかない。年末ジャンボ宝くじが当たって欲しい。

改善しようと思うと金も知恵も必要で、つい思い煩ってしま
う。お金が、知恵が欲しいと。

園舎を維持管理していくことは、しんどい仕事であるが、園
児の笑顔が浮かぶと清水の舞台から飛び降りなければならない
ところがある。聖歌541の「みなささぐ」と一節を繰り返し
歌って鼓舞している。

日毎の糧

聖書：ハレルヤ。天において、主を讃美せよ。
高い天において、主を讃美せよ。詩篇 148： 1



ルターの言葉から

神はおそらくこの世界を創造しないでおくこともできたろう。しかし、神は創造し、栄光と力を示された。

『卓上語録』M.ルター著、植田兼義訳、教文館

讃美は命

「旧約聖書の信仰者たちが自然に擬人的表現を用いる時は、本詩の場合がそうであるように、神ヤハウエによる万物の創造がつねに意識されているのである。人間と自然とは神の被造物として、創造の神のもとでともに息づいている、という感性がそこにはたらいっている。」（「詩篇の思想と信仰VI」月本照男 新教出版）

私たち、私たちの世界はあくまで神に作られたものであるということを心に刻むことである。人間が謳歌されるとき、創造の神を死においやって、謙虚に神をほめたたえる心が抜けて、私たちは讃美する躍動を失っていく。それは、私たちの死を意味する。

今日の世界をみるとき、全ての地上のものが神を讃美する心を失い、創造の世界を力と力で争い、創造された世界を壊している。

その姿は、地球温暖化である。あたかも地球の温暖化は嘘だと言い切ってしまう世界が私たちの世界となり、創造の神のもとで、ともに息づいている、という感性失い、創られたものすべてが讃美する躍動の力を失い、私たちの首を自分自身で絞めて、死へと真っ逆さまに落ちていっている。

創造の神のもとで、ともに息づいている、という感性を回復していききたいものである。

祈り：創造の神のもとで、ともに息づいている、という感性を回復していきますよう力をください。

甘木通信

空の空、いっさいは空である。

すべてに時がある。生まれる時、死ぬ時。

コヘレトの知恵



除夜礼拝を行えば、一年が終わる。ここまで、よく、口喧嘩をしながら妻は支えてくれた。昔、いつものように口喧嘩をしていると、子どもが「喧嘩をしない、しない」と言ったことを思い出す。

この子らに親としては望むような学びの時を与えられたと思っている。中学から子どもらが望む学校で過ごし、大学を二校いき、十分に学びの時、経験を与えていただいたと思う。父親としては、日本の中心、東京で、青春期、大きな刺激を受けて、ただ十分に学ばせたかったという夢を持っていた。夢が実現出来たのも、子どもへの躰、教育がされ、それ以上に愛情を注いでくれた妻が支えてくれたからだと思う。これも当り前のような時の流れだったが、当り前のことでない。

日々の洗濯した服、下着を着る時も、食事が当り前のように用意される時も、それは、当り前でないと自分に言い聞かせている。

今年は、老いのせいだろうが、今も大学病院に通っている。そんな私の状況も当り前のこととして、うるさく言わないで突き放してくれている。こっちは、もう少しかまって欲しいが。

子どもに対して賢母でなく大母であり、夫に対しても大妻である。後、何年、口喧嘩をしつつ、手を合わせて過ごせるかと年の瀬に思う最後の礼拝の時を持っている。

(甘木日記)土) 午後から明日のクリスマス祝会の準備する家内に促されて、甘木教会。明日の準備、クリスマス・イブ以降の準備。**日)** 雨。早くからクリスマス礼拝、祝会の準備で信徒さんが来られる。松崎保育園の保育者、職員、保護者、園児、インドネシアの青年と楽しい祝会。クリスマス・イブ以降の礼拝準備完了。**月)** 冬季休みの幼稚園。自己評価委員と言いながらこちらの責任を重く感じる。**火)** 早朝の出勤。ご近所に年末の挨拶と自己評価委員会の評価作成。**水)** クリスマス・イブ礼拝。良き時が過ぎた。**木)** 0時のクリスマス礼拝。松崎保育園での礼拝。東京へ**金)** 羽村幼稚園の管理者会議。9時から16時まで。ご苦労様である。23時に着。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。
はぐちらない聖人（牧師）もいます。



土）起きるのもかったるくいたが、明日のクリスマス祝会の準備で家内が行くので、家内に引かれて甘木教会に。明日の礼拝の準備、クリスマス・イブ礼拝、クリスマス深夜礼拝、除夜礼拝、新年礼拝の準備。暖かくて隣地の会社の駐車場を掃除。無理せず。夜、ユーチューブを見ていると神田松之丞から神田伯山襲名の昔の末廣亭で行われていた神田伯山ティービーに出

（ブラジル製の粘土クリブ） 会い、2時半まで見ていた。日）そんなわけで眠たく朝、起きています。主日の前の夜更かしはいけないと懲りない自分を笑ってします。クリスマス礼拝、祝会。松崎保育園の保護者、園児、保母、職員、その子どもらも加わり楽しい時間を過ごす。後がないところを生きている説教者にとって、自分の経験がみ言葉を証していくように伝える。原稿とはまったく違う。車で久留米まで信徒さんに送っていただく。体力が落ちている私にとってありがたい。老いた。月）冬季休みの幼稚園は、なんとなく違う空気感。自己評価委員を行う。聞きながらこちらの責任が重く感じる。夜は新しく入る職員との面談。火）朝、早朝に幼稚園へ向かうが、正直、どう道を開こうかと思いつつ、足は重い。書類を整理し、本当にご迷惑をかけたご近所にクリスマスのケーキを届け終わる。幼稚園で堆肥を作っていることを知っているご近所さんが落ち葉を取っていただくさり届けてくださる。昼食は久しぶりにほっともつと弁当。帰りに芋飴饅頭と塩饅頭を購入。少し食用慾が出てきたことを喜んでいる。水）クリスマス・イブの日、日曜日に礼拝は準備しているので、ここは安心だが、いつものように教会、幼稚園の仕事をし、甘木に向かう。ご近所に一年のお礼にケーキを持っていく。お寺は明日の朝にしよう。クリスマス・イブ礼拝、聖歌隊も編成で来た。アットホーム的な時を過ごせた。息子のクリスマス・イブ礼拝のユーチューブを見る。「親父は礼拝好き、学生時代はだから家に寄り付かなかった」を枕に説教。笑う。木）0時のクリスマス礼拝も共に出来た。松崎保育園での職員の聖書の学びは、ヨハネ福音書を用いてした。こども礼拝。小岩教会時代の教会学校の生徒（60歳）が訪ねて来た。この時代に作ったノアの箱舟の版画が教会からなくなり、持っている私のところに取りに来た。版木はどこにいったのだろうか。当時の子ども2人が今年、天に帰った。安い切符の飛行機・最終便をとって、東京へ。友人宅に泊めてもらうのだが、しかし、無理があるので、最終便でなく、ホテル代のことを考えると高くても、早い便で行く方が友人に迷惑をかけずに良いと今頃、気づく。金）羽村幼稚園の管理者の個人面接、管理者会議で、「26年度教育、保育方針」の決定。**（自作の聖家族の切り絵、原画は和田雪香さん彼女も天におられる。もっと長生きをしてほしかった。）** 東京から久留米。23時に着く。今、風のようにを送付。

